

【話題提供】外来魚報道への反応

高田 昌彦（琵琶湖を戻す会）

昨年8月のYahoo!ニュースに、「今も指摘される“密放流”、10年に一度の漁業権切り替え——『ぜんぜん終わってない』ブラックバス問題」という長文の記事が掲載された。近年マスコミに取り上げられる機会がめっきり減ったブラックバス問題について、琵琶湖や芦ノ湖の事例を中心に、ブラックバス問題が置かれている現状が紹介されていた。

かつて、外来生物法や滋賀県のレジャー条例（リリ禁条例）の制立前はパブリックコメント等におびたしい意見が寄せられたが、そのほとんどがバス利用者（熱狂的なバス釣り人やバス関連団体・企業等）からの反対意見で、それらは全体の9割を超えていたと伝えられている。当時はインターネット上でもブラックバス問題に関連して様々なやりとりがなされていたが、ブラックバス駆除の必要性などを訴えようものなら、バス利用者から容赦ないコメントが寄せられ炎上必至の状況だった。私がこのYahoo!ニュースを目にしたのは掲載翌日で、何気なくニュースに続いて表示されたコメント欄を見ると、掲載後たった1日で1500件を越えるコメントが寄せられていた。コメントの内容を見ていると、かつてのような“反論一辺倒”なものばかりではなく、理性的なものが多かった。そこで、これらのコメントから、ブラックバス問題が、いまの社会にどのようにとらえられているかを見てみることにした。

まずはコメントを“主観”で分類してみた。すると圧倒的に多かったのが「バス利用者に問題あり」という内容のもので、全体の2割を超えていた。それに続くのが「罰則・規制強化」に関するものだった。ここで興味深いのが、この2つに書かれてるコメントの中に、バス利用者側からのものと思われるものが少なからずあったことである。他の分類のコメントも同様で、かつてのような“擁護派”だの“駆除派”だのといった2分する立場はかなり薄れている印象を受けた。その理由としては、外来生物法施行から20年弱が過ぎて、様々な議論を重ねてきた結果、社会の外来魚問題に対する考え方が成熟してきたととらえられる一方で、かつて反論を繰り返していたバス利用者にしてみれば、今さら目くじらを立てて反論を書き込まなくても、日本全国好きところで好きなだけバス釣りを謳歌できるので、見て見ぬ振りをしているだけなのかも知れないが、実際にどのようなコメントが寄せられていたのかを情報提供してみたいと思う。

